

黒潮が 12 年ぶりに大蛇行

黒潮は、8 月下旬から、紀伊半島から東海沖で大きく離岸して流れる状態が続いており、12 年ぶりに大蛇行しているとみられます。この状況は、海上保安庁の測量船による観測データからも確認されました。

黒潮の流路の変動は、船舶の運航や漁業に影響があるほか、潮位が上昇することで、沿岸の低地で浸水などの被害が生じる可能性があるため、注意が必要です。

黒潮は、今年 8 月下旬から、潮岬で離岸し、東海沖で北緯 32 度より南まで大きく離岸して流れる状態が続いており（図 1）、平成 17 年（2005 年）8 月以来 12 年ぶりに大蛇行しているとみられます。海上保安庁の測量船「海洋」が 9 月 27 日に観測を行い、得られたデータからも、東経 138 度線上で、黒潮の蛇行の流軸^()の南端が、北緯 31 度 57 分付近に位置していることが確認できました（図 2）。黒潮の大蛇行は、今後少なくとも 1 か月は続く見込みです（図 3）。

黒潮大蛇行の判定には、

- ・潮岬で黒潮が安定して離岸していること
- ・東海沖（東経 136～140 度）の流軸^()の最南下点が北緯 32 度より南に位置していること

の 2 つの条件がありますが、今般、これらの基準を満たしたと判断しました。

黒潮の流路が変わると、船舶の経済運航コースや、突然の大波が発生しやすい海域が変わるほか、漁場の位置にも影響を与えます。また、秋は 1 年の中でも潮位が高い時期でもあり、東海から関東地方の沿岸では、黒潮流路の変動によって潮位が上昇することで、低地で浸水などの被害が生じる可能性があります。特に、台風や低気圧が接近した場合は、さらに潮位が高くなりますので、より一層の注意が必要です。過去には、1979 年の黒潮大蛇行期間中、10 月に台風が通過した際、東海地方で顕著な高潮による浸水被害が発生しました（図 4）。

気象庁と海上保安庁では、今後も黒潮流路の変動を注意深く監視していきます。

気象庁「海流に関する診断表、データ」：海流図は毎日更新、1 か月先までの見通しは旬ごとに更新

http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/shindan/index_curr.html

海上保安庁「海洋速報 & 海流推測図」：海洋速報は平日毎日、海流推測図は毎週金曜日に更新

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/index.html>

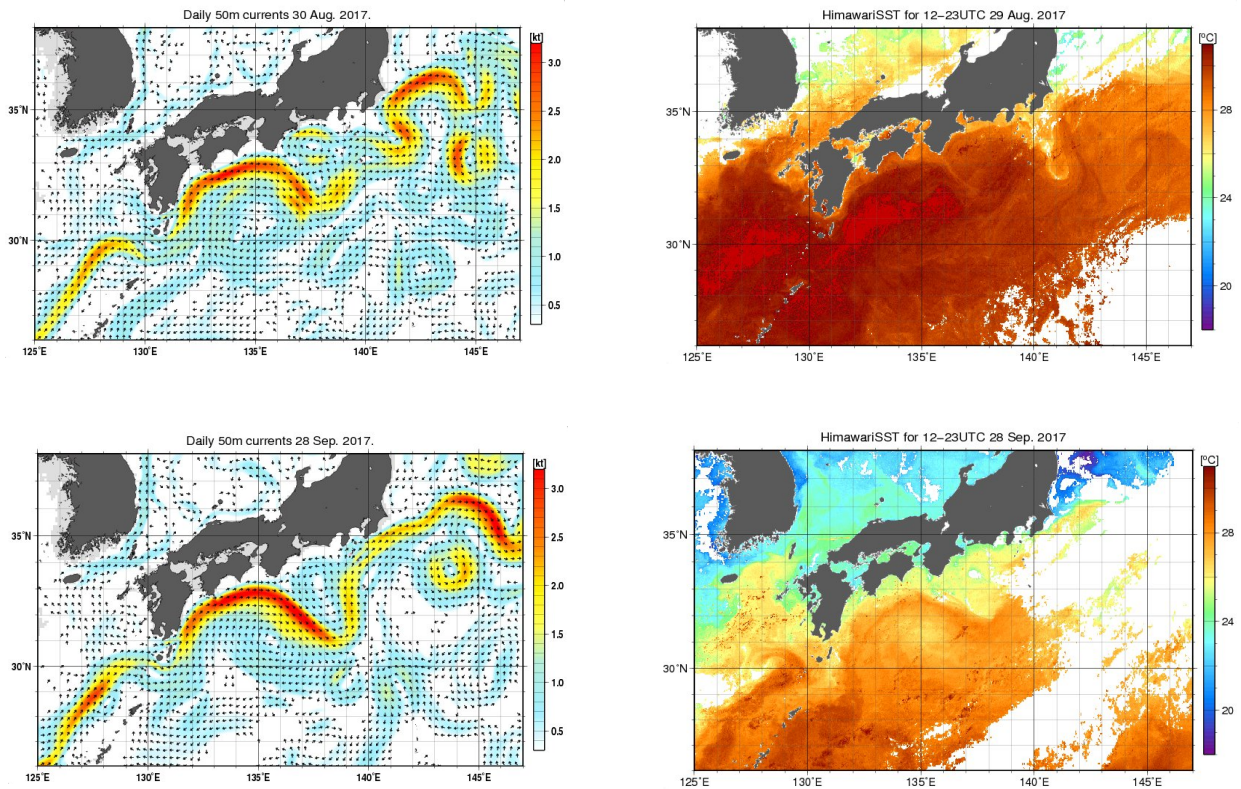


図1 8月30日(上) 9月28日(下)の深さ50mの海流実況図(左)と
同日前後の気象衛星ひまわりによる海面水温画像(右)(気象庁資料)

左図: 海流の速さ(単位: ノット、1 ノット=約 0.5m/s)は、図の右にあるスケールで色分けされています。赤色は強い流れで、日本の南の強い流れが黒潮の流路に相当します。この図は、海洋モデルの結果と観測データを総合的に解析した結果を示しています。

右図: 水温は、図の右にあるスケールで色分けされています。日本の南に、黒潮の流れに沿った海面水温の高い部分が見られます。

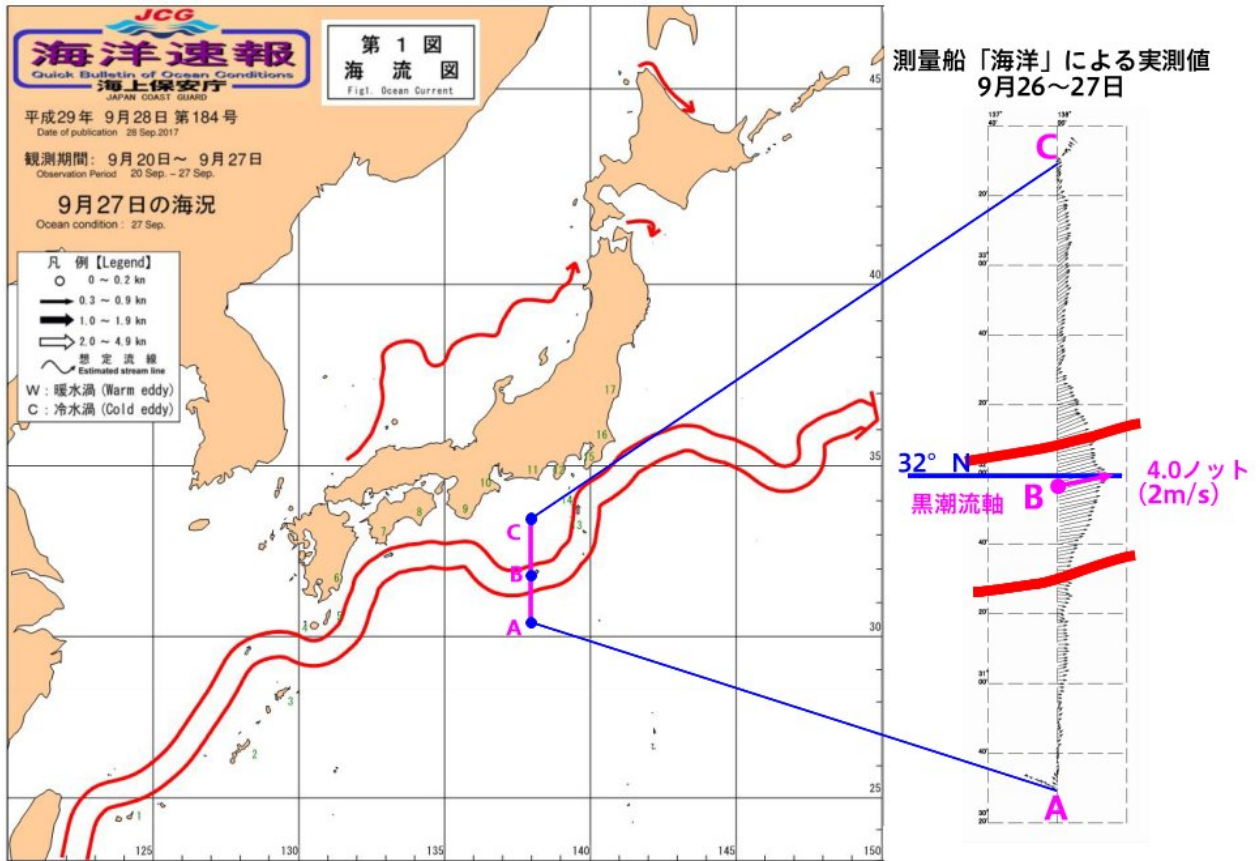


図2 9月27日の海流と測量船「海洋」実測データ（海上保安庁資料）
 二重赤線が黒潮の流路を示しています。A-Cの線上（東経138度）を観測したところ、B点の流速が最も速く4.0ノットであることが分かりました（図右側拡大部）。

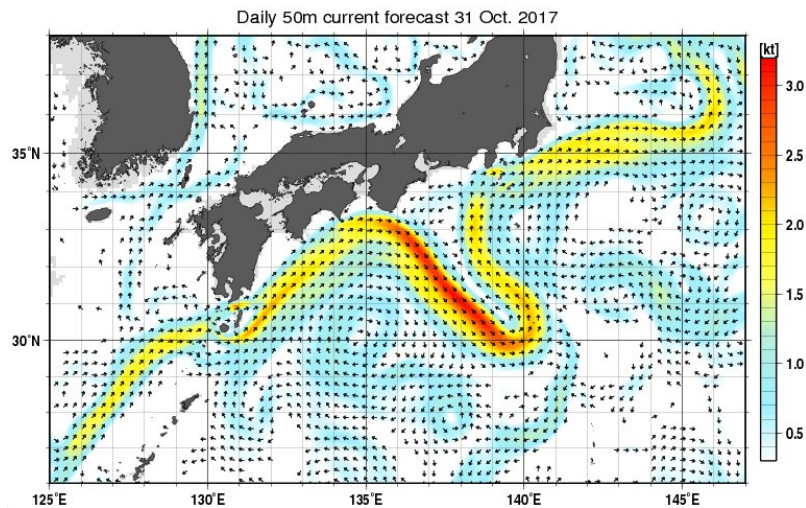


図3 10月31日の深さ50mの海流予測図（気象庁資料）
 海流の速さ（単位：ノット、1ノット=約0.5m/s）は、図の右にあるスケールで色分けし、赤色は強い流れを示しています。この図は、海洋モデルによる予測結果を示しています。



図4 御前崎検潮所の黒潮大蛇行時（1979年）の日平均潮位（単位：cm）
観測値が負にならないように設定した基準面からの値を示しています。

(参考資料)1965年以降の黒潮大蛇行の発生期間

8月30日報道発表資料 参考資料(http://www.jma.go.jp/jma/press/1708/30a/20170830_kuroshio.pdf)より再掲

期間	継続月数	期間中の最南下緯度	最南下点の平均経度
1975年8月～1980年3月	4年8か月	30.0°N	137.3°E
1981年11月～1984年5月	2年7か月	31.0°N	138.7°E
1986年12月～1988年7月	1年8か月	31.3°N	138.3°E
1989年12月～1990年12月	1年1か月	31.6°N	138.3°E
2004年7月～2005年8月	1年2か月	31.3°N	138.1°E